

ゆうやけこやけり。ぶれい

春にかみなり



名前	写し水（うつしみ）
正体	湖の守り神（おんなのこ／年齢？歳）
人間の姿	首に円鏡を下げた柔らかそうな女性。カーディガンに長めのスカート姿。
設定	写し見湖の守り神。正体は水のため決まった形を持たない。奥まったところにある湖なので訪問者が少なくて暇をしている。

へんげ【3】 けもの【1】 おとな【3】 こども【1】

名前	めじろ
正体	鳥（おんなのこ／年齢2歳）
人間の姿	10歳くらいの女の子。セミロングの白髪を持ち、小鳥プリントの黄緑色のシャツと黒っぽいスカートが普段着。
設定	のんびりして気の弱いメジロ。白津饅神社の近くに巣がある。果物や花の蜜のような甘いものが大好きだが、虫は苦いので苦手。

へんげ【3】 けもの【2】 おとな【2】 こども【1】



名前	わかな
正体	猫（おんなのこ／年齢3歳）
人間の姿	15歳くらいの女子高生。黒いセーラー服がトレードマーク。
設定	のんびり屋で、普段は人間の姿で魚を釣ったり、猫の姿で町をプラプラしている。好奇心旺盛で悪戯好きだが、無邪気というよりは、ちょっぴり意地悪。

へんげ【1】 けもの【4】 おとな【1】 こども【2】

名前	石山 こみこ
正体	魔法使い（『つぎはぎだより号外』より） (おんなのこ／年齢10歳)
人間の姿	いつも巫女服。背中くらいまでの黒髪。いつも幸せそうな笑顔。
設定	森宮市稻田（白津饌神社のある辺りから見ると隣町）にある石山神社の娘。 おばあちゃんの元で修行する、見習い巫女。

へんげ【2】 けもの【1】 おとな【2】 こども【3】



名前	竜胆（りんどう）
正体	狐（おとこのこ／年齢？歳）
人間の姿	10歳くらいの男の子。肩にかかる程の長さの白髪に金色の瞳。藍色の着物を好んで着ている。
設定	釣鐘山中の白津饌神社に住む白狐。詣でる人たちの願いを聞きながら、社を護っている。街へ出歩いていくのは好きだが俗的な事には疎い。

へんげ【3】 けもの【2】 おとな【2】 こども【1】

名前	エン
正体	燕（おとこのこ／年齢4歳）
人間の姿	13歳くらいののっぽな少年。髪はゆるい天然パーマで、マフラーを首に巻いている。
設定	巣から落ちた時に助けてくれた人が残していったハンカチを頼りに探している。

へんげ【4】 けもの【1】 おとな【2】 こども【1】



白津饅のお祭り

語り手
..
g
o
b
u

（自己紹介）

4点だと完全に人間、みたいな？

語り手 ホラー映画かよ！

こみこ 石山こみこ、10歳でーす！ どこぞの狐のいる神社とはちょっと離れた別の神社で、巫女をやってまーす！

なんか『へんげ』たちが白津饌神社に集まるのが納得いかないんで、今日は潜入調査でもやってみようかなー、なんて。 よろしくお願ひしまーす！

語り手 潜入調査ってのは、いつごろから？

こみこ 今日、お祭りって話だつたでしょ？ だから石山神社からも、友

好の証を装つてお店を。別に、元々仲が悪いわけじゃないけど。 出店してるのが、魔法グッズ的なぞ。

語り手 ううん、やきそばだよ。

めじろ メジロのめじろです、名前がそのまんまでごめんなさい。

お花や果物をつつきつつ、毎日のんびり暮らしています。普段からのんびりしてて、気が弱めで『ひよわ』なので戦闘力には期待しないでください。

語り手 甘いものが大好きです。

こみこ この子って普段どこにいんだっけ。
めじろ 巣は神社の木だよ。どっかにあるよ。

写し水 私は写し水（うつしみ）。竜胆の神社から20分くらい奥に進むとある湖の守り神をしてるよ。

守り神、といつても大したことはないからね。あまり訪問者も多くないから基本的に暇なんだ。

ああ、うつしみって呼びにくいだろ？ 「うつづー」とか「うつしー」とか「みしつうー」とかって呼んでおくれ。

こみこ 0点だと水がしたたって、2点だと髪とかがしつとりしてて、

語り手 じゃあ、お互に『つながり』を作りましょうか。

写し水 ふたりには『保護』でとるよ。

こみこ 写し水さんは神様だし、『尊敬』かな。めじろは……どうしようかな、とりあえずは『好意』にしどこ。

めじろ 両方『尊敬』でいきます。

語り手 じゃあ、お互いに『つながり』を作りましょうか。

写し水 ふたりには『保護』でとるよ。

こみこ 写し水さんは神様だし、『尊敬』かな。めじろは……どうしようかな、とりあえずは『好意』にしどこ。

（場面1. お祭りの日の神社・屋）

語り手 さて、時期は11月も半ばを過ぎた頃、とある秋晴れの日。

今日は町も白津饌神社も、いつもとは違う雰囲気です。何やら慌ただしく準備をしていたり、大人たちが話し合っていたり……：

まあ、隠す必要もなくお祭りの準備です。
ところで、みなさんはどこにいますかね。

こみこ 夜の準備って感じなのね。

語り手 そうですね。

写し水 湖でのんびりしてるかな。

こみこ じゃあ、いつも石山祭にも来てるやきそば屋のおじさんについててお手伝い。

めじろ 巣にいる。

語り手／竜胆 じゃあ、めじろから。あなたが神社にある巢にいますと、竜胆が話しかけてきます。

「おい、めじろよ、いるか？」

めじろ 「あ、はい？ なんでしょう」 巣から顔だすよ。

語り手／竜胆 「うむ、めじろは今日はこの神社の例大祭であることを

知つておるか？」

「分かりました、楽しんできますね！」で、湖の方に飛んでいく
と思う。

語り手 では写し水のところへゴー。

めじろ 低空飛行でぱたぱたと。

めじろ 「ああ、何だかそんな話は聞いたことがありますけど」

語り手／竜胆 「街では出店なんぞが軒をつらね、中々盛況だぞ？」

とつ、街に降りてみたらどうだ？」

めじろ 「え、でも人混み怖いですし……」

語り手 「む？ それなら写し水を連れてけ。保護者代わりになるだろう」

めじろ 「写し水さん？ ええと、一緒に行く人がいるなら怖くない……

かも」

語り手 「うんうん、それがいい。写し水はあちらの湖にあるから、話してみる」

めじろ 「わ、わかりました。それじゃあ行ってみますね」

語り手／竜胆 「ああ、それとだな……」とゴソゴソと袖を探ると。

「これを持つていけ、駄賃だ」と言つていくらかのお金をくれます。

めじろ 「駄賃？ わ……何だか悪いですよ」

語り手／竜胆 「いや、よいよい。どうせ俺は使わんからな。むしろ、

こういう祭事の時に使ってこそその金だ」

めじろ 「じゃあ、ええと……ありがとうございます。使わせてもらいます」

すね」

語り手／竜胆 「うむ、楽しんでこい」というと竜胆は神社の中の方に帰っていきます。

めじろ 地面に降りてから『ふしき』と『想い』2点ずつ使って羽を残して『へんげ』しないとお金うけとれない不具合。

こみこ 巾着とかに入れくわえさせてあげればいいのに。

語り手 じゃあ、紙幣をいくらか巾着に入れて渡すよ。

めじろ どうせ『ふしき』と『想い』なんてあまるから良いよ！」

語り手 しばらく飛ぶと、写見湖ですね。そこには写し水さんがのんびりしている。

めじろ 「写し水さん、ここにちはー」声を掛けるのじや。

写し水 のんびりしすぎて湖に溶けてるけどね。

語り手 見つけられるの？

写し水 めじろの声に反応して、もこーって湖の上に形を作るよ。

こみこ なんかこわい（笑）

写し水 昼間だから4点必要かな。『ふしき』と『想い』を2点ずつ使う。

「はっはっは、ここにちは。お嬢ちゃんはええと……め……め

……めぱりちゃん？ だつたかな？ あっはっは」

語り手 名前を覚えてやれ（笑）

めじろ 「ええと、めじろです。それでですね……一緒にお祭りに行きませんか？」

写し水 「あっはっは、めじろ、ちゃんね、うん、覚えてたよ、めじろちゃん」

「あっはっは、めじろ、ちゃんね、うん、覚えてたよ、めじろちゃん」

「あっはっは、祭り？」と首を傾げて。

めじろ 「竜胆さんに行って来いって勧められたんですけど、私1人じゃ

こころもとないので……」

写し水 「竜胆に、ね。あっはっは……ああ、もうそんな時期だったか。そ
うかあ」

「うん、久しぶりに祭りもいいなあ。あっはっは、そういうことなら喜んで行こうか。と、言いたいところなんだけど」と言つて湖を見回す。

めじろ 「ええと、何か問題が……？」きょとん。

写し水 「私、ここから離れられないんだよなあ」

「まあ、とりあえず竜胆のとこでもいか、奴がなんとかしてくれるんだろう」

「奴が振った話だからね、何も策がなければただの阿呆だよ」

とめじろにウインク。

語り手 そんなことを話しているとですね。どこからともなくふらふらーっと、にけを頭に乗せたあきがやってきます。

(あきとには、森宮に住む兎と猫のへんげです。前回のリプレイ「湖畔の秋」に登場しました)

語り手／あき 「写し水さん、こんにちわー」 手を振りつつ。

写し水 「あっはっは、うさぎちゃんとねこちゃんじゃないか。どうしたんだい? 君たちも一緒にお祭りに行くか?」

語り手／にけ 「にけが、丸まつたまま尻尾だけ左右にふりふり。」

語り手／あき 「いえいえ、私たちは行くつもりはないですよ。にけが『だるい』って言っていますからー」

「それで、ですね、それを竜胆さんに話したら『じゃあ、すまんが写見湖の留守番を頼めんか』って」 口調を真似つつ。

写し水 「あっはっは、似てる似てる。なるほどねえ、うーん……じゃあお願いしようかなあ」

語り手／あき 「了解です! じゃあ、めじろちゃんも写し水さんも楽しんでさせてくださいね」

「あ、あれ? 解決みたいですか?」 のんびりしてたらいつの間にか解決してた。

「ええと、がんばって楽しんできます……!」

写し水 「寒くなったり、飽きたり、お祭りに行きたくなったら竜胆にぜくんぶ押し付けていいからね」

語り手／あき 「にけと遊んでますから大丈夫です! それに、にけは暖かいんですよ!」

こみこ にけは天然湯たんぽだもんねえ。

写し水 今って真昼間かな?

語り手 昼間ですね。

写し水 そうかあ、じゃあお祭りに行く前に竜胆のところに寄りたいな。

語り手 神社では竜胆が祭りの準備を手伝つたりしていますね。

写し水 そうかあ、じゃあお祭りに行く前に竜胆のところに寄りたいな。

語り手 了解。では場所を神社に移して……

写し水 そうかあ、じゃあお祭りに行く前に竜胆のところに寄りたいな。

語り手 ああ、そつか。じゃあ、会つてるのは神社の裏手にでもしこう。

写し水 なら勝手に上がりこむか。

語り手／竜胆 「ん? オウ、写し水か。どうした?」

写し水 「あっはっは、いやなあ、久しぶりに私のこれくしょんを開いてみようと思つてな」

竜胆の神社に桐ダンスをおいて、その中に和服洋服のこれくしょんを昔から貯めてるという設定を今考えた!

語り手／竜胆 「これくしょん? ……ああ、あれか」といって桐たんすに目をやる。

「まったく、お前が次から次へと貯めこむから隠すのが大変だぞ……ほれ、さっさと選んで行け。俺は忙しい故な」

写し水 「さて、めじろちゃん、お祭りといえば着物だよ。まあ、今は寒いから、上に厚いものを羽織る必要があると思うけどね」

めじろ 「わあ、服がいっぱいです。……あ、ええと、お着物ですか?」

めじろ めじろを確認してそくさと出していく竜胆。

語り手／めじろ 「私が着物を用意するわけだよ。桐ダンスを開けてめじろサイズの長着とか小袖や羽織を見繕つて出すよ。ついでに自分のもね。」

写し水 「私にあう服なんてあるんでしょうか……?」 ↑10歳。

語り手／めじろ では、2人であれこれ見繕つてるところで場面を切りましょか。

こみこ くつ……嫉妬しちゃう！
語り手 すんな（笑）

（場面2. お祭りの日の街・昼）

語り手 こみこが街で準備してるところにしましょうか。

こみこ はーい！

語り手 えーっと、知り合いのおじさんを手伝ってるんでしたっけ。

こみこ うん。屋台業界って、近い場所ならどこに行つてもだいたい人が決まってるものだから、おじさん以外にも顔見知りの人はいると思うけど。

語り手 では、おじさん達に混じってせっせと手伝いをしている感じで行きますか。

こみこ こどもらしく、素直にお手伝いするよー！ ってことで『想い』1点使って『こども』でおじさんに印象判定。

語り手 じゃあ、『保護』でもらおう。

こみこ 「このガスボンベ、こっちでいい？」

語り手／おじさん 「おう！ そこに置いといてくれ！ いやー、

語り手 こんなに手伝つてもらっちゃって、すまねえなあこみこちゃん」

こみこ 「だって、いつも石山祭のときは手伝ってくれてるじやん！」

語り手／おじさん 「ははは、こみこちゃんは偉いなあ」

こみこ 「ふふん、将来は石山神社を背負つて立つんだもん！」

語り手／おじさん 「おお！ それは頼もしいな！ じゃあ、そんなこみこちゃんにはお駄賀だ！」 と言って、お金を渡してくれます。

こみこ 「ありがとー！ じゃあまずはおじさんのやきそば買うね！」

語り手／おじさん 「おう！ 待つてるぜ！ この祭りは結構派手だからな、楽しめよ！」

こみこ さて、そんなところで「ここはもういいから、遊んでおいで」とおじさんが言います。

こみこ 「はーい！」 といって、それじゃあ神社のどこかにいるはずの、へんげどもを探してみましょうか。

こみこ ところで、お小遣いはやきそばを買つたら残り幾らになるんでしょうか？

語り手 1500円くらいかな？

語り手 こみこ たかー!? 予想以上だった！

語り手 おじさん、こみこちゃんに甘い。

語り手 さてと、写し水たちはもう街に降りてきてるかな？ ちなみに、出店が出てるのは街ね。

こみこ 神社前の通り、って感じでいいのかな。

語り手 どちらかというと、商店街とかの方。商店街からショッピングモールに向けて出てる感じ。

こみこ じゃあ、そこから神社に向けて、それっぽいのがいないかどうか探索開始。

語り手 そいだら、写し水とめじろには見つかってもらおう。

語り手 がやがやと観光客だつたりがいるなかに、着物姿の写し水とめじろを発見します。

めじろ 『ふしき』と『想い』4点ずつで完全変化ね。

写し水 おなじく完全変化。

こみこ 「とーさん！ ようきがー！」 などと、お父さんが教えてくれた言葉をマネしてみる。

語り手 言つてもわからないって。

こみこ くつ……嫉妬しちゃう！
語り手 すんな（笑）

で、周囲の人に「だいじょぶ、なんでもない」と誤魔化しつつ、うらめしそうに写し水に上目遣い。

めじろ 「??？」状況がよくわからない！

写し水 「あっはっは、どうだらうね」とウインク。

語り手 「では、こみこが泣いてるもんですから……」

通りすがりのお姉さんが「その子、泣いてるけど……どうかしたの？」と言つて話しかけてきますよ。

こみこ 「だ、大丈夫です！」

写し水 「この娘もこう言つるので気にしないでくれ、あっはっは」

語り手／お姉さん 「そ、そう……ところで、ちょっと聞きたいん

こみこ 「だけど、いいかな？」

語り手／お姉さん 「うん、お姉さん毎年このお祭りにきてるんだ

けど、今年は何か出し物はあるのかなーって」

と、ここで補足説明。

白津饅神社のお祭りは出店以外に、お神輿が街中を練り歩きます。で、神輿が商店街に差し掛かると、神輿の中の神様をもてなすために住民は何か出し物をします。

と、以上。まあ、こみこは知らなくてもいいでしょう。

写し水 「あっはっは、ごめんね娘さん。私はわからないんだ」

語り手／お姉さん 「えーそうなの？ 商店街も今年こそはって楽

しみにしてるんだけどなあ」写し水を見ながら。

こみこ 話くらいは知つてると思うけど、具体的にどんなことをするのかは知らないな。

「私んちは稻田だからわかんないー」

語り手／お姉さん 「稻田？ うーん、そつかー、でもあっちの方

のお祭りも面白くて好きだよ」にっこり笑いながら。

めじろ 「そういえば、オミコシがあるって聞いたことがありますよ」

語り手／お姉さん 「そう！ お神輿なのよ、お神輿！ 君、いいところいてくるね！」と急に熱っぽくなる。

めじろ 「へ？ は、はい……」押され気味。

語り手／お姉さん 「知つてた？ この街のお神輿はね！ 商店街でもてなされるんだけど！ 実は商店街の代表さんはこれに

すっごい力入れてね！」

めじろ 「は、はい……そうなんですか……？」そこまでは知らぬ。

語り手／お姉さん 「おかげでこっちは面白く面白くて！」と、手

をブンブン回しながら話す。

こみこ 「へえ……」さすがにそんなことは知らなかつた。

めじろ 「な、何だか急に怖くなつた……」

語り手／お姉さん 「いやー毎年それが楽しみでもう！ ほら、結構観光客も来てるでしょ？ きっとそれのおかげよね……でも

……」

めじろ 「で、でも……？」

こみこ 「でも……？」

写し水 「ん？」

語り手／お姉さん 「うん、最近はねえ、その出し物がしょぼいのよ……お金がないんだってさー」急にしょんぼり。

こみこ 「そつかー、こつちもそうなんだー……」

語り手／お姉さん 「なーんか、商店街の人たちも諦めムードって

いうか……ねえ？ あなたたちは何か出し物しないの？ あれは確か一般参加オッケーよ？」

こみこ 「！ 今からでもいいのっ！？」

こみこ ちょっと、ここらで石山神社の宣伝でもしてみようかと思つた。

語り手／お姉さん 「オッケー オッケー、ほらここに書いてある」

折ったポスターを取り出して指をさす。って、宣伝かよ（笑）

こみこ 「じゃあ一緒にやろ！」とみーちゃんとめじろを誘つてみる。

もちろんうちの神社の宣伝なんてのはおくびにも出さずに。

語り手

潜入調査員、潜入先の奴らと仲いいな、おい。

めじろ 「出し物……？　あんまりそういうのはよく分からないですけど……」

写し水 「あっはっは、まあ楽しそうだしいかな」

こみこ 「じゃあ私が考えるからっ！　あと準備もしてこないと！」

語り手／お姉さん 「ん？　君たちはそういうのには困らないんじゃない？」

めじろ お姉さん、『へんげ』のこと知ってるのか。

こみこ いろいろ怖いなー（笑）

写し水 「うん？　娘さんも同胞かな？」

めじろ 「へ？　どうして、ですか？」相手の言葉の意味がめじろは汲み取れなかつた。

語り手／お姉さん 「だって、あなたたちこういうのでしょ？」と

こみこ 言って、白狐のお面を出して顔に当てる。

こみこ 「私は違うよ？」

めじろ 「白狐は神社の龍胆さん……あれ？」

語り手／お姉さん 「あら？　そうなの？　それはごめんね。お詫びにこれあげる」こみこに白狐の面をプレゼント。

こみこ もらっちゃつた……どうしよう……とりあえずかぶつておこ。

語り手／お姉さん 「これをつければ、もれなく君たちもお稲荷さまの使いだーって感じかな、あはは」

ああ、お面はそこら辺で売つてる白津饅稻荷神社例大祭の記念品みたいなもん。

こみこ それはとても複雑な気分……うち違うし。外して、身長的に同じくらいだしめじろにあげよう。

み一ちゃんは背が高くて、頭に上手くのつけられそうになかつた。

語り手／お姉さん 「あら？　いるない？」

こみこ 「だつてうち、稻荷様じゃないもん……」

語り手／お姉さん 「あ、そうだっけ？　ごめんごめん。ところで、あなたたちも出し物やるんだよね！」あたしの名前は珠美、期

待してるよ！」

こみこ というわけで、『へんげ』に2突っ込んで4で印象判定ー。

めじろ 『へんげ』って知ってるみたいだし『想い』1点で『へんげ』4にして印象。

語り手 ジゃあ、『憧れ』でいくか。

めじろ 「ほえ？　……あ、はい。分かりました……？」

語り手 お面を貰つて

疑問に思いつつお姉さんに返事するけど（あれ、結局私参加するの？）とか思いながら頭に？浮かべるめじろ。

語り手 他になれば、お姉さんは「じゃあ、あたしは他にも見て回るから」といって去つていきます。

こみこ さて……それじゃあ出し物の相談しよか！

語り手 先に場面を切るかな。

♪場面3. 出し物の練習・昼 ♪

語り手 出し物の相談なら、場所は好きな場所で時間は昼かな。あ、『ふしぎ』と『想い』を補充してね。

こみこ したー！

さて、それじゃあうちの神社は遠いから、白津饅神社の境内の、あんまり人がこなさそなところでいいかな？　ここならみんな

な4点で済むでしょ？

でも着物が濡れちゃうからなあ。私は完全『へんげ』しておくよ。

写し水

『ふしぎ』4、『想い』4だ。

めじろ 人いないなら両方から2点で羽のこし。

こみこ 「で、出し物は何にしよかー？」で、マイクを向けるような仕

語り手 草で写し水とかめじろにインタビュー。ちなみに、お神輿は夕方から神社を出て、街を移動した後、日が落ちてから神社に戻ります。

写し水 「私は今何が流行っているのかわからないでなあ」

めじろ 「私も……出し物とかよくわかりません」

こみこ 「くつ……折角の宣伝チャンスが！」

「んーと、みーちゃんが水芸してみるとか？」

『ふしぎ』が20点溜まれば、夕方限定で『ふしぎ』が普通にな

るの！

写し水 「あっはっは、水なら得意だ」

こみこ 「じゃあ、めっちゃんがその周囲を飛び回るとか？」（いつの間にかあだなが出来た）。

「試しに、練習がてらやってみてよ」とみーちゃんにおねだりしてみる。

めじろ 「と、飛び回る……？ 変化を解いて、ですか……？」

こみこ 「ほら、水がびゅーっと出てるところを小鳥が飛び回るんだよ、なんか良くない？」

めじろ 「ほら、水がびゅーっと出てるところを小鳥が飛び回るんだよ、一緒に消えるんじゃない？」で、次に変身した時にはもとに戻つてゐる。

めじろ わかった。

こみこ 巾着は預かっておくよー？

めじろ じゃあ巾着はおいとく。

語り手 ついでにいうと、芸の完成度は本番で判定してもらうよー。

こみこ 「というわけで、早速練習いってみよー！」

めじろ

「ええと、じゃあ……よいしょ。……飛び回るって、こんな感じですかね……？」変化を解いてそこらをぐるぐる飛び回つてみる。

こみこ

みーちゃんもほら水芸はやくー！

写し水

「水つてこうか？」滝水を真上に噴射しながら。

こみこ

「カーット！ もつとこう、水でアーチとかつくって！」完全に監督モード。

写し水

「あーち……？」

めじろ

（ぐるぐる飛び回るの……疲れる……）ぱたぱた。

こみこ

「ええっと……つまり、もつと斜めに！ 水を虹みたいにまるく

めじろ

飛ばして、そこをめっちゃんがくぐる！ いい！？」

写し水

「ええ、お水こわい……」

めじろ

「まるくか……こうか？」空中にまんまるな水の輪つかを作つて。

語り手

「うん……私が思つたのとは違うけど、そっちのほうが凄いと思

めじろ

なんだそのとんでも現象……。

こみこ

う

語り手

俺もすごいと思う。

こみこ

で、めじろに「ほら、怖くないからくぐつてみて！」と催促。

めじろ

「あれをくぐるんですけど……？」うう……ええい……っ」輪に突っ込む。

語り手

「潜れた……よかつた……」ホッとする。

こみこ

「じゃあ、ぐいっと親指を立てて。

めじろ

「こんなのでいいのか？」

こみこ

「いやあ、ぐいっと親指を立てて。

語り手

あ、『ゆうぐれのまほう』で『ふしぎ』使わなくとも能力使える

こみこ

から、『へんげ』たちは好きにやつても大丈夫っぽいよ。

めじろ

「じゃあ、これで準備はOKだねっ！ ちょっと雰囲気作りのた

出店で売っているであろう商品を全身に装備した珠美が「どーん！」てやりそうな格好で突っ立てる。

こみこ 「お客さんを探すのが店員の仕事だもんね！」 と、それっぽいことを言ってみる。

で、(この歳のお姉さんでもこういうの興味あるんだー) とちょっと感心。

語り手／珠美 「ちえ、そっちのお姉さんは上手くやつてたのになあ。

コツとかあるの？」 写し水を見ながら。

写し水 「あっはっは、まあの功つてやつだね」

語り手／珠美 「年の功かあ……精進精進」

めじろ 「あ、さつきのお姉さん」 今気付いた。

語り手／珠美 「よつす！ どう、楽しんでる？ あたしは楽しんで

る！」

こみこ 「お姉さんがやきそば買ってくれば、もっと楽しいと思うよ！」

語り手／珠美 「焼きそば！？ よし！ 3皿目だけど、お姉さんいつ

ちゃうよー！ 焼きそばいっちょー！」

こみこ 「だって、おじさんーん！」

語り手／おじさん 「あいよー！ 任せとけ！ ほら！ 焼きそば

こみこちやんスペシャルだ！」

めじろ 「今のところはまだ……」 ポソリ 大盛り焼きそば怖い。

語り手／珠美 「あー、その顔は楽しんでないなあ！？ よし！ お姉さんがスペシャルプレゼントだ！」 めじろにチヨコバナナを押

し付ける。

めじろ 「わあ、ありがとうございます！」 果物、甘いもの、つまり好物。

こみこ ちよっぴり、羨ましげな顔。

写し水 ずぞー。

こみこ そろそろ、みーちゃんを割り箸でべちつて叩いてみようかな。

語り手／珠美 「おんや？ そつちも欲しそうだねえ。よしよし、これ

写し水

を全部あげよう」 こみこと写し水にも綿菓子、チヨコバナナ、カステラ、リング飴、あんず飴etcを渡す。

写し水 もぐもぐ。

こみこ たくさんすぎて、ちょっと戸惑う。

めじろ 「甘いものがいっぱい……私は今とっても幸せです……！」 見るだけでも満足できます。

写し水 渡される順に食べる。

こみこ みーちゃんのほうをチラ見して、役に立ちそうにないからおじさんのはうをチラ見。

語り手／おじさん 「？」 照れちゃうなあつて感じにはにかむ。

めじろ こいつろりこんだろ。

語り手 娘感覚だよ（笑）

こみこ 全部手に持つわけにもいかないから、やきそば用のパックを貰つて、そこに置いておこう。

語り手／珠美 「さてと！ 腹ごしらえも済んだし、そろそろじゃないかな？」 お神輿がくるの

こみこ で、わたあめを鉄板の傍に置こうとして、おじさんに溶けちゃうよって言われて別のところに置きなおしたり。

語り手 きつとちょっと溶けた。

こみこ 「それじゃ、手はず通りにお願いねっ！」

語り手／珠美 「そうそう、あなたたちも出るんだよね？ どんなことやるの？」

こみこ 「ひみつ！」

写し水 「みずで……」

語り手／珠美 「みず？」

めじろ チヨコバナナむぐむぐ。

こみこ 「だから、ひみつ！」 と言つて慌ててみーちゃんに「しー！」

写し水 「あつはつは、しーだそーだ」

語り手／珠美

「あはは！まあ期待してるよ！この街の豊作と商売繁盛は君たちの双肩にかかるつておるのだ！なんつって」

こみこ じゃあ、お姉さんに力こぶを作つてみせよう。

語り手／珠美 「お、やる気満々だねえ！こりや今年は楽しみだ！」

めじろ 「……あ、はい。頑張りますね」食べ終わつた。

語り手 とかやつてると、「出し物に参加する方は集まつてくださーい！」って声が。

こみこ 「おーし、じゃあ2人とも行くよーー！」

めじろ 「わ、わかりました……！」緊張する。

こみこ ほつとくと食べてばかりになりそうなみーちゃんを押しながら、

おじさんにはいぱい。

写し水 もぐ。

めじろ 返事が咀嚼音。

語り手／珠美 「お、始まるみたいだね。じゃあ、あたしは特等席で見

てるから！楽しませてよお？」

さて、そんなところで場面を切ります。

語り手 神輿は白狐の面を付けた男衆や子どもに担がれて、やつてくる

よ。周囲の色と相まって幻想的な感じ。

こみこ ふつふつふ……じやーん！！

そんなこともあるうかと、さつき帰つた時にお囃子の道具を持つ

てきていたのだ！！

語り手 神輿が道の半ばでとまる、次々と出し物が行われていくね。

準備ができたら出し物始めていいよ。

こみこ では……夕闇の中で、全てが神祕と幻想に染まつていくのです。

語り手／もぶ 「おお、何か今年は霧囲氣あるなあ……」

こみこ 奥義・神樂舞（ゆうぐれのまほう）！！ふふん♪

語り手 この舞自体も出し物になつてる？

こみこ かもね？

語り手 じゃあ、そうしちゃう。

では、こみこが幻想的な舞を見せつ神輿の前に躍り出る。

こみこ お囃子にあわせて神樂を舞つて、その隣でみーちゃんとめっちゃ

んが水芸なのだー！

語り手／もぶ 「おや？見かけない顔だな？どここの子だ？」

こみこ あ、背中に石山神社つてのぼりを背負つてる。

写し水 丸をたくさんつくつて浮かべようか。

語り手／もぶ 「石山神社かあ。今度行ってみるか」

「おい！あっちのネエちゃん、あの水芸はどういうトリック

だ！？」

「おいおい、ありやちょっとしたもんだぜ！？」

こみこ 得意げ。

めじろ じゃあ適当に変身解いて水の輪ぐぐりに行くよ。

語り手／もぶ 「おあ、鳥が舞うなんて風流だねえ。ありがたいありが

めじろ ぼくも2点ずつで完全変化。

語り手

時間は夕方、まさに逢魔が時。

和樂器のかなでる音楽を引き連れて神社の方から神輿がやつて

きます。

『ふしき』と『想い』2で完全変化。

写し水

めじろ ありがたい……のか……？



写し水 丸を5つ重ねてオリンピック！

「あっはっは、東京おりんぴっく記念だ！」

語り手／もぶ 「おお！ オリンピックイヤー（ロンドン五輪）だから

か！ 芸が細かいなあ！」

そんなところで、芸の完成度を見るべく、各自それらしい能力で判定よろしく。

写し水 『へんげ』3に『想い』10足すか。

こみこ えーっと、こっちは『想い』8点で『ふしぎ』10で舞った！

めじろ 『つばさ』使用して何か軽快さを増しつつ、『けもの』に『想い』

6点つぎ込んで2+6+『つばさ』。

語り手／もぶ 「おい、あいつ今、東京オリンピックって言つたぞ」

こみこ ↑東京オリンピックを知らない人。

語り手／もぶ 「バカ、何時の時代の人間だよ、聞き間違いだろ？」

写し水 『あっはっは、大阪ばんぱく記念だ！』

語り手／もぶ 「今度は大阪万博だと！？ あのネエちゃん何歳だ！」

こみこ ↑大阪万博も知らない人。

写し水 「太陽のなんとかつてやつだぞ！」

語り手／もぶ 「た、太陽の塔だあああ！ 水芸の領域じや

めじろ 「チーチュルチーチュルチーチュルチー」（鳴き声）飛び

回つたりくぐつたり色々。

語り手／もぶ 「いやあ、野生のとりが芸をするなんて、今年はどうなつてんだ」

こみこ 珠美さんはいるかな？

語り手／もぶ あ、珠美探す？ そุดだな、探すなら『へんげ』か『けもの』だな。

こみこ 『へんげ』で8くらい出してみようかなー？

語り手／もぶ では、こみこはお神輿のあたりに珠美的気配を感じる。しかし、

その気配は先程とはうつてかわって神秘的なものだ。

こみこ きょろきょろ。

めじろ まあ特等席つってたしなー。

語り手／もぶ とても近くにいるようだけど、見当たらないね。

こみこ そんなところで、出し物は終わるかな。

語り手／もぶ そつかー、あの人、ここ神様だったんだねー……。

こみこ どうだかね！ どうだかね！

写し水 こつそり気付いておくかなー。

語り手／もぶ 気が付きたいなら『へんげ』で判定しておくれ。

写し水 『へんげ』3+『想い』6で9とか言つていい？

語り手／もぶ おつけー。まあ写し水だし確信を得てもいだろう……神様だよ！

写し水 気が付いたけど、特に何も言わぬ。

語り手／もぶ じゃあ、そろそろお神輿に道を開けよう。

こみこ つ……疲れた……写し水の肩に止まる。

語り手／もぶ 君たちが道を開けると神輿はゆっくり去つていった。

こみこ そして……群衆から「ブラボー！ マーベラス！」って大きな拍手喝采！

写し水 「ぶら？ ベら？」

こみこ 途端に恥ずかしくなつて、そそくさとやきそば屋さんに戻るよ！

語り手／もぶ 「ワンドホー！」

めじろ （私ワンちゃんじゃないよ？）

語り手／もぶ さて、そんなところで場面を切るか。

と片付けてる。

こみこ もうすっかり夜だねー」

写し水 私は早く帰らないといけないな。

語り手／珠美 では、そんなところに

「おーい！ みんなー！」 とかけてくる。

こみこ じゃあ、ぺこり、とお辞儀。

語り手／珠美 「いやあ、すごかったね！ ピックリしたよ！」 と興奮

した様子。

こみこ なんかちょっと複雑な気分だったり。

写し水 「年の功ってやつだな。あつはっは」

めじろ 「あ、お姉さん。私、頑張りましたー！」 一応、完全変化しとく

3点ずつで。

写し水 「なうでやんぐーな芸を披露してやつたからな」

語り手／珠美 「なうでやんぐ？ 写し水さん、それちょっとふるー

い」 冷やかすように。

「でも、良かったよお！ こみこちゃんの舞は可愛いし、写し水さんの水芸はもう怪奇現象だし、めじろちゃんはすっごいビュンビュン動いてて！」

こみこ 「すごかつたよねー……でもあの変な塔はなんだったの？」

めじろ 「ええと、あれ？ 私が鳥だったの、知ってたんですね」 イマ

サラ。 「でも、良かったよお！ こみこちゃんの舞は可愛いし、写し水さんの水芸はもう怪奇現象だし、めじろちゃんはすっごいビュンビュン動いてて！」

語り手／珠美 「おっと、口を滑らしたかな？ まあ、そんなこといいじゃない！ はいご褒美！」 編菓子、チヨコバナナ、以下略を

みんなに。

めじろ 「わあ、ありがとうございます！ 疲れも吹き飛びますー」 華麗に流された。

写し水 「あつはつは、これはお留守番をしてくれた子たちにあげよう」

こみこ 「まだ全部食べ切つてないのに……じゃあ私も、他の人にあげよー

めじろ リンゴ飴もらつたもぐもぐ。
語り手／珠美 「あ、そそう、神社できつつい顔の狐がお酒とか用意して待ってるみたいよ？ 行つてあげたら？」

こみこ 何となくそれはライバル意識！ でもお酒飲めないからなー……困った。まあいいや、いってあげよ。

語り手／珠美 「じゃ、あたしはこれで帰るかな！ いやあ、堪能した堪能した！」

こみこ 「さて、また来年よろしくー！」 と言つて去つてしまふ。

写し水 「さて、私達も帰ろうか」

めじろ 「行っちゃつた……。帰りますか」 もぐもぐ。

語り手 祭りが終わった静けさのなか、神社への道を歩き始めたところで、おしまいおしまい。